

自己選択・自己決定は、小さなことからコツコツと、 イチゴとバナナ、どっちが好き？ ⇒ 分かりません。教えてください！？

「イチゴとバナナ、どっちが好き？」などと質問したとき、とっさに「分かりません。教えてください」と答えてしまう児童生徒がいます。二者択一の質問なのですが・・・(ー_ー)。

確かに「分からないときは“分かりません。教えてください”と伝えましょう！」と教えています。自分から「教えてください」と答えたときには「良く質問できました！偉い！」と褒めたりもします。

しかし、「イチゴとバナナ、どっちが好き？」への答えとしてはどうでしょうか。再度、よく考えて答えるように促すと「イチゴ(バナナ)が好きです！」と答えられます。その後は、続けざまに様々な択一問題を出しても好きなものを1つ選んで答えられるようになったりもします。どうして最初から答えないのでしょうか？



何か質問されたら“分からない”と答えておいた方が自分にとって都合が良い(助けてもらえる)と感覚的に学んでいるのかも…。いや、そもそも「この子はこう!」「服はこれ!」「食べるのはこれだけ!」「この子の進路はここ!」と、全て親が決めてくれるから、自分では考えなくて良いと思っているのかな…と感じたりもします。どう思いますか？

何でも親が決める! ⇒ 子ども自身で選ぶ!決める!

二択以上の選択に迫られた時、どっちを選ぼうか?という局面は人生のあらゆる場面でやってきます。「今日は何の服を着ようかな?」「お昼は牛丼とラーメン、どちらにしようかな?」「どのガチャガチャをやろうかな?」「こっちを選んだからあっちは我慢」などなど…。

我々は、進路を決めるとき、引っ越しするとき、一人暮らしを決めるとき等、重大な決断を迫られる場面では、自らが選択し決定しなければいけません。失敗することもあります。その選択と決定の積み重ねが人生を豊かにしているといえるかもしれません。

福祉の世界でも「意志決定」の重要性がいわれるようになってきました。近い将来、親ではなく子ども自身の選択と決定が強く求められる世の中になりそうです。

まずは簡単なことから“自分で考えて決める”経験を子どもに積ませていきませんか。



進路を考える機会にしませんか(一次案内)

福祉施設合同説明会「7/31(月)10:00~12:00(予定) ヒロク4F」

障害のある人の就労生活を支援する団体“さくらジョブネット”が主催する福祉施設合同説明会が開催されます。福祉施設が多数参加しますので、パンフレットを見ながら説明を聞いたり、質問や相談したりできます。会場の出入りは自由です。後日、案内を配付します。是非ご参加を!



保護者職場施設見学「9/22(金)8:40~14:30(予定)」

本校PTA主催行事として保護者職場施設見学も復活します!ここでは、卒業生の進路先を中心に見学し、小学部、中学部段階から進路先を考える機会にしたいと思います。毎年、見学していくことでいろいろな進路先や福祉サービスの違いを知ることができます。昼食代はPTAから支出されますので、おいしいランチも食べられます♪ こちらも後日、案内を配付します。

